

小川
江典

日本地理往来

下

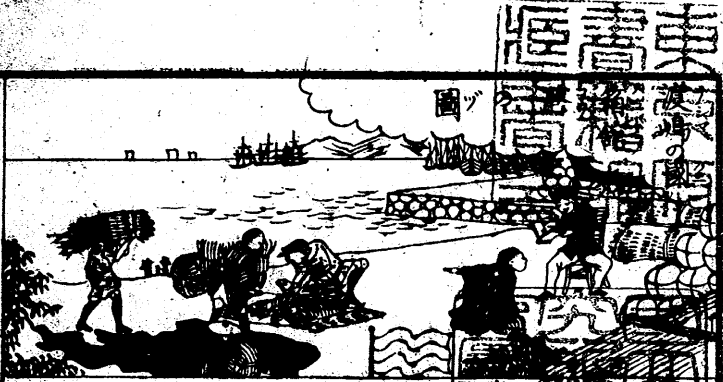
大日本教育會館藏

第五室

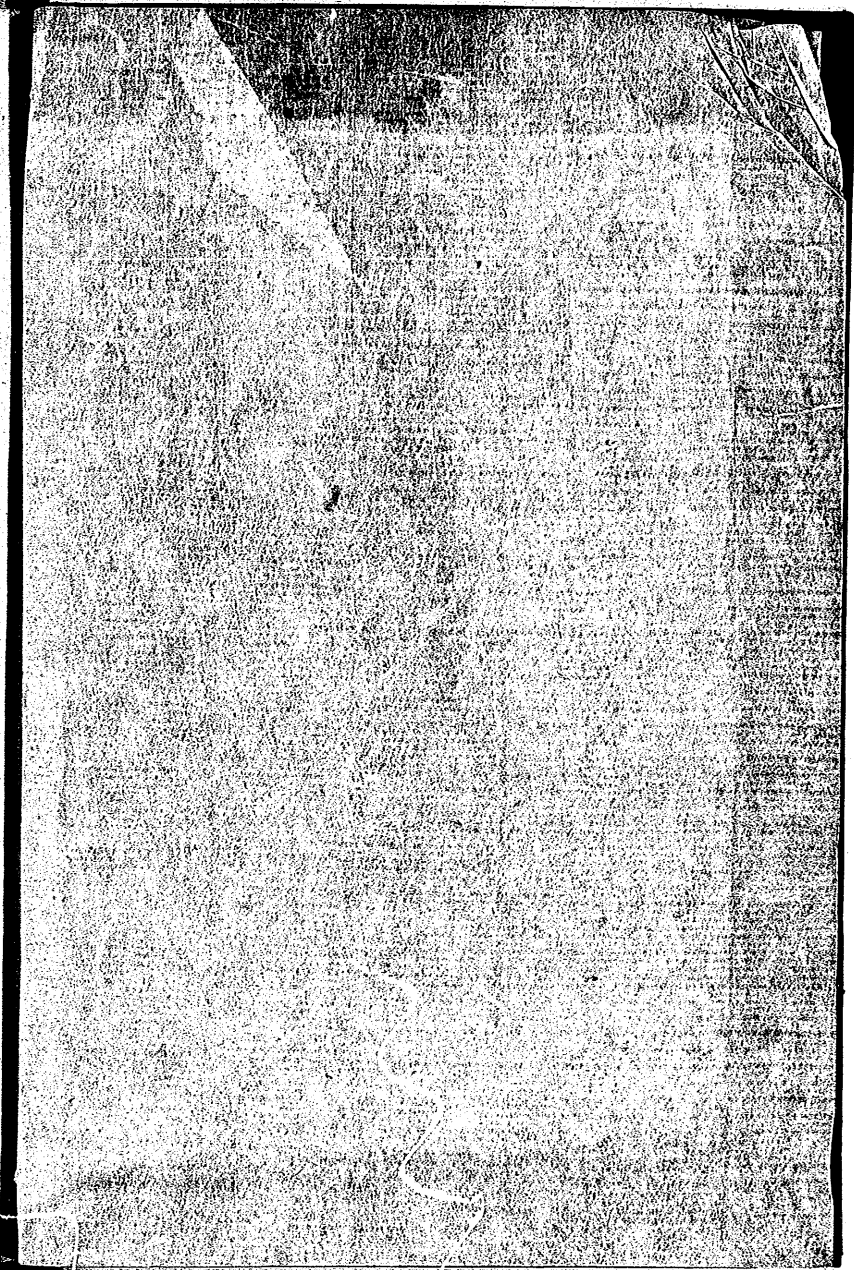
二册	六号	二函
----	----	----

二本

K110,26
12
2



日本地理は素々下
 北海道を十國方
 海より土地廣く可候
 其江寒山なり
 先茅子渡島に陸奥



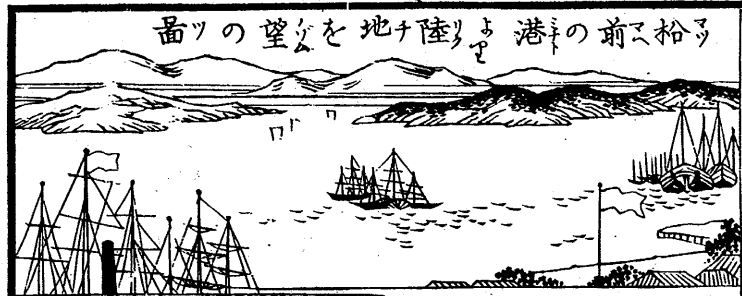
○北海道ハ旧称蝦夷といふ其疆城曠漠より僻遠なり因之明治二年巳巳の秋八月大ひに開拓の基を起し之を改て北海道と稱し國を十一國に定めしむ

渡島國南乃岬松前

津輕郡の正北を走る
 そと方海を水と膠握
 海を二重に界と限る
 吾境は北に接し
 能取尾田元部

ハ陸奥津輕郡北泊より海路北方九里より三馬屋よりハ十一里青森より三十二里箱館へ十六里ありて其國凡四十三度より五十一度小係て大寒地より大概南北本邦道三百里東西百里

星龍嶽山岳絶頂
 砂原駒ヶ嶽山内浦嶽
 此山を大湖あり
 南に曰尻村は海村也
 此山を東の岬と



南より沙首其西
 乃一山大地連
 港を舟に舟田
 箱館港市易港一
 船より沖に船

をありの國あり

○渡島 七郡

カタクヤベカミイ
龜田茅部上磯

ツガルヒヤマニシ
津軽檜山爾志

福嶋

人七万五千五百人

國內輻漆の地ハ松

マエエサミト
前江差殊小箱館を

ガカイコウ
五関港の一ふりて

カウエキセイタイ
貿易盛大乃地あり

日本地理志

あまの邊なる平坦を
 地の如く舟を極める
 乃河に海出たる方
 ち河嶽や崎乃西首
 岳乃舟も矢張り

日本地理志

〇三

○土産 鮭 鱈 鮭 鱈
 金 銀 銅 錫
 昆布 煎海鼠 鮑
 藥種 海獺

○後志 十七郡
 久遠 奥尻 太櫓
 瀬棚 島牧 壽都
 歌葉 磯屋 岩内
 古宇 積丹 美國
 古平 余市 忍路

知内寄宮の歌吉岡白
 神杉前溪のまゝの
 多きけき其ふれ地
 花あめふれを江に
 町あふ。西方海中大小二

高島小樽
 人口二万九千九十八人

○土産 金 銀
 鮭 鱈 帆立
 貝 煎海鼠 鮑
 水豹 硫黄 アツ
 シホ類

○石狩 九郡
 石狩 札幌 夕張

吟。それ海へふふめわく
 阿ま。海へ山中へ軒新。
 七はやが嶽とるも嶽惠
 志嶺ふは利潤岳信ふ
 元山ふ乃國小村切石彩

田方地理錄

天塩テシチ
中川ナカガハ
上川カミガハ

人口千五百七十八人

廳

○土産
砂金 シヤキン
麩 サケ

羆 ヒマ
 熊 クマ
 鹿 シカ
 狐 キツネ

驚
アツシ

○北見
八郡

ソウヤ
宗谷
リシリ
利尻
レングリ
禮文

枝幸 エサン
紋別 モンベツ
常呂 トコロ

網走 斜里

網走斜里

乃。あふ。き。る。て。尾。平。こ。
 磯。家。が。り。る。歌。集。類。也。
 今。鹿。原。校。内。新。岩。内。湾。
 六。水。世。と。西。乃。陰。河。原。古。
 水。積。丹。未。定。存。就。の。下。

人口千五百十八

廳

○土産
銀^{キン}
鉄砂^{テツサ}

昆^{コシ}布^ブ
鮎^{ニシ}
鮐^{サケ}

イ
リ
コ
剪海龍
ヒ
メ
鰐
ク
マ
熊

鹿 シカ
狐 キツネ
アツシ

○膽振
八郡

山越 畝田 有珠

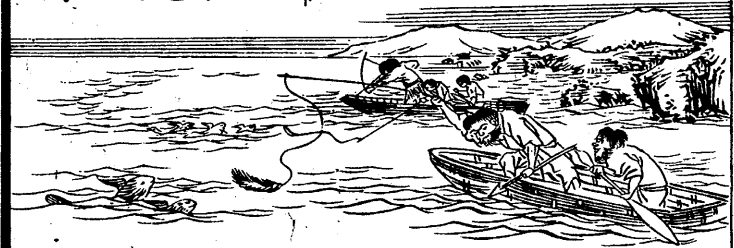
室蘭
幌別
白老

ユウフツ
千歳
勇拂

久遠の別府と建後
 島印と奥尻と宇
 島印と奥尻と宇

益々黄金山に地汁を
まけこぼす。やくちうり

海と釣るをる図



羽幌^{これ}より足^{ひがし}上^{こゝろ}東^{ひがし}東南^{こゝろ}
 きて^{いんぎん}海^{うみ}山^{やま}を^{ゆく}る^{うへ}ね^い知^しま^るる^が
 石^{いし}釣^つる^や夕^{ゆふ}張^{はり}示^しる^湖
 岩^{いわ}後^{のち}拒^け界^{かい}西^{さい}に^あま^るれ^た
 幌^{ほろ}嶺^{りやう}。後^{のち}志^しより^ま思^{おも}ひ^たす^は

十勝^{トカチ}
人^{ひと}口^{くち}四百^{よひゃく}六^む十^{じゅう}八^{はち}人^{にん}

廳^{へい}

○土産^{どさん} 鯖^{さば} 鮭^{さけ}

昆布^{こんぶ} 熊^{くま} 鹿^{しか}

狐^{きつね} アシ

○釧路^{くしろ} 七^{しち}郡^{ぐん}

白糖^{しろばつ} 足寄^{あしよ} 釧路^{くしろ}

阿寒^{あかん} 網^{あみ} 尻^{しり} 川^{かわ} 上^{かみ}

厚^{あつ} 岸^{ぎし}

第四^{だい}天^{てん}鹽^{えん}の玉^{たま}形^{かたち}木^き校^{がう}
 板^{いた}の^のや^やく^くし^し其^{その}間^{あひだ}一^{いつ}石^{いし}将^{しょう}
 國^{くに}の^の地^ちを^を押^{おし}入^{いれ}る^は大^{だい}
 牙^がお^お接^{せつ}と^と三^{さん}方^{ぽう}山^{さん}を^を西^{さい}海^{かい}
 山^{さん}部^ぶを^を塩^{えん}の^の大^{だい}河^がを^を流^{なが}る^は

人口七百三十八人

廳

○土産

昆布 鮭

鯖 鮫 鰯 煎海

貳

熊 熊 熊 熊

鹿 狐 蒲 蕨

花錦 鹿 鷺 黒水

晶 アツシ

○根室 五郡

花咲 根室 野付

此を國河と云ふ

別狩の北は慢泊の留

前高の慢泊新牛屋

昔の如く慢泊の北は王治の

川口を度々流るる地を

標津 目梨

人口八百三十八人

廳

○土産

鯖 鱈

鮭 海産 水豹

海獺 黒狐 熊

熊 鷺 アツシ

○千島 五郡

國後 擇捉 振別

蓋取 紗那

原天鹽の川を海と云ふ

河乃第一迄は北極を屯

斗を北極を屯高屋

此を北極を屯高屋

見國を北極を屯高屋

人口百三十七人

廳

○土産 鮭 鯖

鰯 鱒 煎海鼠

獺 水豹 熊

狐 鷲 アシ

○北海道土産品ハ

金銀銅ニとも多

トシ

土人これを掘事を

王座嶺を以て南界とし

又北界を以て南界とし

と南界を以て海中に

第五ノ山を北見と云ふ海

嶺を以て南界と

あらば、今、捨置

のミ也

砂金

此砂金河水は流れ

出る乃みふらに砂

金のりる地ハ十里

二十里ハ土地一両

生る形り又湧上

上ると覺へね海

峰を以て南界とし

嶺を以て南界とし

西海に島を以て南

海を以て南界とし

嶺を以て南界とし



猿と蟻と
戦の圖

なり。悦内澤。本。改。乃。東。

あり。と。大。湖。あり。悦。若。若。若。

河。北。口。五。川。源。を。け。と。入。と。

十。勝。剣。路。と。分。界。と。即。捕。

細。走。村。と。澤。五。七。を。取。

濱四五十里何と一

帯の金色をあげと

云へて是を拾お

くのゝあり

良材あり

檜葉 蝦夷松とを

ハ檜ノ類せる良材

なり當世障子曲物

白木臺などを作る

ハ此木なり

多。何。事。河。新。尾。と。初。登。

岬。の。所。が。此。方。足。良。乃。

隅。と。松。玉。と。の。界。也。

第六。勝。振。國。と。云。東。南。

海。と。西。山。海。志。石。持。の。京。

昭本其理從之

五葉松 コヨウノマツ
桂 カウ
栲 トチ

源
黄栌
柳花

シシキ
春菊 白花
ユリ
百合 黒花

虎杖 トラヅ
 高サ一丈五尺
 太サ廻リ六七寸

葉莖理り六七寸
葉一丈余

○山獸

熊 之

ヒクマ
非熊
赤事猩々
非の

○水獸

ラツコ
オツトセイ
カワチツ

海子 海隸

[illegible]

水豹 アサラン

○鳥類多し 就中

眞羽鷹マハタカ

離ワカ
騷サウ
あり
此コノ
申マウ

多々箭の目を吐く

絶品と負ス

海魚

ニシ

魚 鯉 同子
ニレホン
コクカズ
コ
イ

是亦邦婁の子と云

三品產出

宝蘭堂懷別白元於
 此小亭有大湖
 東北西湖
 玉界湖乃西南
 勇拂我妻
 六川

コトタコク ヒルイ
夏他邦より比類なく

て夥し

鯨 海嵐 蛇夷

大鱈 其大なるもの
海に出るとき

其脊の廣さごとく六

七十丈のそのつら

とつふ

昆布 キナボウ 漢名
不詳

○藥品

イゲマ エブリコ

だう

くふさうひ。

むろそ

そのど

高のふ界深ふ川の水源

いづりおんうい

をほくそ石狩分界と

ひだり

みんうい

第七日高ふ南海ふ

さる

ぶり

さうひ

きた

しんざん あね

猿を猿の界ふ海を

ゆふり

あか

へー

がそ ざうひ

乃り夕張とく石狩界

附子 黄精 黄連
人参 黄柏

附子ハ毒箭子用

ゆるふり其法附

子蕃椒足高如の

三味を搗て泥と

して火子煉くと

ちの

コカサフツアマタ

此外産物数多り

厘けきとも大畧哉

あふけ

夫蝦夷地より往古

ハ陸羽兩國これ蝦

たつ

さく

うとい

とけ

のあちやり

琴平海ふ山嶺阿蘇利

のふ

あとのふり

ういひん

山と青峰と海濱を

さる

たん

べつ

あつづ

まひ

うい

沙流紅別厚の彩霞野

るい

うい

うい

うい

うい

うい

内や三石浦川極似るを

いづ

えり

さき

れん

うい

糸を柱を峰はる海乃

夷たり既スデ前板エタ小
鎮守府の碑ヒ小蝦夷エゾ
ニササ
國界一百二十里と
て今道二十里た
りモナリケン桃生郡の以南を
日本と一以北を夷
地と定めらるゝ
ふ一をとり其より
四十余年后 桓武
帝の延暦中子征東

大甲東より百人濱
邊千餘とを界せり
第八十勝とす南海西ハ
日界は北を石野見
沙金路之國と後最

將軍坂上田村麿大
小東征して終ツキ多
賀城より古道八百
四十里今道百四十
里北の方南部大間
津輕の外ソト濱まで
服後せしめく海ウミよ
り南を日本乃地と
し北を夷地と定め
られたり

を界とす十勝の大河を源
派ひとるふは此國と
西南廣尾を縁経り勇
常盤平山海之河乃半橋
川より内地を十餘新橋拂

鳴人^{ナリヒト}の圖^ヅ 北海道^{ホクカイドウ}の



北^{ホク}海道^{カイドウ}の南方^{ミナミ}多^タ谷^ヤ燈^{ドウ}
 終^{ハシ}る海^{ウミ}廣^{ヒロ}也^{ナリ}利^リ比^ヒ
 利^リ比^ヒ境^{カイ}界^{カイ}を架^カ。
 第九^{クニ}と則^{スナハチ}利^リ比^ヒは西^ニと十^{ジュウ}
 勝^{カチ}北^{ホク}見^ミ在^{アイ}相^{サウ}室^{シツ}と云^{イハレ}と

後^{コト}鳥^バ羽^イ帝^{テイ}文^{ブン}治^シ五^ゴ
 年^{ネン}源^{ゲン}義^ギ經^{キョウ}興^{キョウ}州^{シュウ}秦^{シン}
 衡^{コウ}のたぬ衣^イ川^{カハ}
 してお死^シせしと
 とも密^{ヒカ}ふ此^{ココ}蝦^エ
 夷^イ渡^{ワタリ}嶋^{シマ}人^{ヒト}をま
 たけへ長^{オサ}とあり
 て終^{ハシ}る此^{ココ}地^チして
 率^{ソウ}を其^{ソノ}子^コ孫^{ソン}残^{ノコ}る
 と云^{イハレ}是^{コレ}風^{フウ}説^{セツ}は

境^{カイ}を東南^{トウナン}海^{ウミ}廣^{ヒロ}し海^{ウミ}濱^{ハマ}
 核^{クハ}を南^{ナン}里^リより利^リ比^ヒに
 首^{ウヅ}を大^{ダイ}海^{カイ}に厚^{アツ}岸^キ。
 岬^{ミサキ}乃^{ナリ}を慢^{マン}者^{シャ}なり是^{コレ}を
 東南^{トウナン}島^{シマ}多^タ谷^ヤ間^{カン}廣^{ヒロ}を廻^{マヅル}り

てや乃正し事
 詳しやうに
 又其后六百七十
 年を経て
 後花園帝 嘉吉
 三年武田太郎 源
 信廣海を渡りて蝦
 夷國へ乱入し終ふ
 地を得る事小道四
 百二十里今道七十

慢る。東に根室
 界を内地を阿寒山男女
 西嶽天を鍾と西と一湖ふ
 小基はるる。渺渺るる
 多し。此のさへん。あーよう

里これ則ち今の松
 前より此松前より北
 の限りを熊石と云
 ふ多賀城の距より
 此所熊石より小
 道一千三百二十里
 今道二百二十里
 り是を以て考れハ
 天平宝字の頃より
 蝦夷地を得ること

北方細之河と増え此や
 西嶽南降。果と
 此中央より廣く其
 左側と右側あり
 第十はるる。根室と東の端

九倍余ふり鳴呼武
 家大権を握して敷
 百年開拓育民乃職
 勢疎よして徒は饒
 色の武威を示すの
 み此旧失蹊陀を
 とも其詮あり又仙
 堂の士林子平爰ふ
 注意して三國通覽
 を著述せしふ却く

を東海を隔ててありと隣
 をふり。西部をめぐり山原を
 南中北の三岬をめぐり在候
 釧路界を北東より結ぶに
 と遠く大なる。即魏丹

疑忌をうけし爵せ
 加之他邦人
 の觀觀を請ふ至
 ○今哉
 王政 御復古萬機
 御親裁の聖時小
 たをて此州全國
 王化は歸し更は十
 一州は分割したま
 ひ北海道とよめ

名をうて推定するは
 厚牛別や後別のふり
 乃大瀧をめぐり北を標
 津目梨流河を北見乃界
 なまほし平原を地うて

ふんぶ こをぬ おろく

南部の清水多し。

ちりまのくに。このうへだう

第十王の國は海その

りやうあふいま ざん

良の。西大津で五粒なり。

うん ざん さまた あまき

甲津の島角あり松葉の

うん ちうづけ さまは くみーと じやう

海を舟を即し國後郡

たのふ
シエソヒト ソシマサ
夫蝦夷人乃其性を
愚く至て善あり
國小王とふ人無し
只一村切ふ聚落をふ
其國中は家筋
の正し人を楽しんで
村の長とありて夏
を討てり男女共終
日山海小出て諸悪

火打山を築くなり。

ひがー きた うく なが おろいま

夫より東北の方長大津を

えと うふ れみつ ふいね

持提の標津内帆科

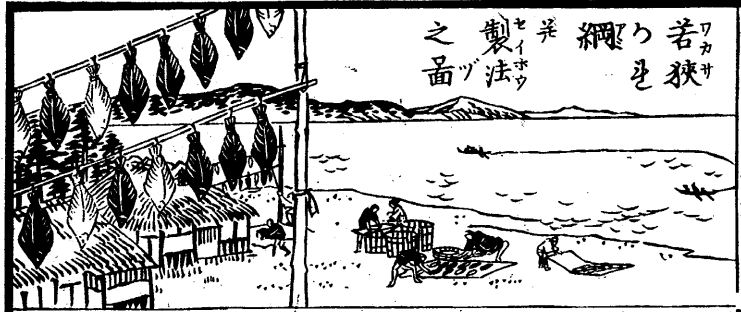
ふね べつ。お、よろ ーハ さん ざうり ー

形振別産家の葉取茶

こくちう こ ちる

中津水ありくわき

獵し松前を出て
交易して人命を養
ふより其國の方言
数多かれ共只其一
リ十迄の數の名を
よめる
一二三四五
六七八九十
此余の事ありき
畧しぬ



北陸道いそぐ。海に臨む
 こと。南方に陸続き。
 先第一若狭と丹波に
 なる。乃ち洲嶼と海濱に
 なる。乃ち山濱と海濱に分る。

日本書紀卷之四

北陸道ハ往昔崇神天皇代のころ後辺夷王化歸せしむ。大彦命を北陸に遣はし征伐せしむ。翌年平治して帰陣す。此時代北陸を総て越の國といふ。其域廣大にして今の越前の地より

常備の兵を一大隊。
 第二番に越前と東邊
 なる山多。西に敦賀の港
 有。仲哀帝の御宇に阿
 多。乃ち官に是れ云ふ。

日本書紀卷之四

遠く津輕の地まで
越の國といふ越又
高志とも書を

○若狹 三郡
大飯 遠敷 三方
人口八万五千七人

○土産 酒 厚紙
硯石 筆 辛灰
石灰 木屐 碁
石 鯨 海魚

此所が最盛なりと云れ。

若狹越前西國と皆一

國と云ふ也。

第三加賀は東南に飛騨と

接する白山ありて雪を

和布 青堅苦 楊
技木 黄板 藥
牝銀 銅 鉾

○越前 拾郡

敦賀 丹生 今立
足羽 大野 坂井
南條 今北 吉田
坂北

人口百万千三百二人
昔ハ越の國界廣大

山收知事は西に海濱に

地石川縣と其國と

能く一色河を隔す。

第四能登は越中の北に

阿波大岬と海濱に

あまを後小越前
 中越後加賀能登
 出羽六ヶ國ふりけ
 らるる

廳 敦賀 若狹一内
 越前一内

○土産 金 銀

銅 奉書 鳥子

雲紙 素漉紙 鋁
 奉書細 絹 嶋

布 割 帛 布 苧 苧 苧 苧
 頭巾 絨 綿 切 石
 磁 連 尺 網 代
 行李 素 麵 油 桐
 駄馬 鐵 鑿 響
 麩 麵 黃 連 石
 炭

○加賀 四郡

河北 石川 能美

江沼

日本地理

廣く其中程ふは島あ
 了。山道僅ふ通路を和を
 小なる端を津海岬。西を
 はるるふり能ふと海。
 第五節 中東のふ。西小

繞るる山なり。あまを栗
 戸磯山。車と朝日佛嶽。
 浄土山。金。中田井
 通二川あり。新川。新川
 玉。新川。新川。新川。

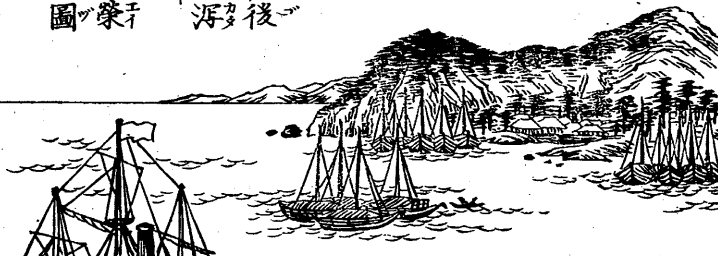
人口里万三千三百七十八
 古ハ加我ト書ク
 仁徳天皇の御代越
 前国ハ保後弘仁
 十四年越前國の二
 郡を割ク再ハ加賀
 乃國ト云ル
 廳石川 鑾鑾二日金沢
 ○土産 米 絹
 撰米 笠 萩原紙

第六越後之戦の中極
 勢を以乃方陣と名高ル
 雪國を山嶽を冬板氷
 まぐ坤るお光山焼山
 何層噴火せる里雅山も名

鼓皮 鐙 手鋼
 象眼彫 硫黄 塩
 硝 黒梅漆
 ○能登 四郡
 羽咋 鹿嶋 鳳至
 珠洲
 人口共万二千五百六十八
 古ハ能等ト書ク天
 平宝字元年五月裁
 中を分ク能登國ト

山々東北乃瑞旭山
 水乃多て湧くを大
 海なり佐渡川を以中
 央にぬき新海の港乃
 方流入る大井山も多

越後新港之圖



あま火水と所る浦智。
 是七怪乃二なる新河を
 北海第一の大港なる如く昌
 地は又々新艦建ちて
 城後一園を名譽を南く

あま

○土産 鯖 素麺

雪苔 経細苔

九万足 珍石類

海魚類

○越中 四郡

礪波 射水 婦負

新川

入口 空万 幸百 空三

廳 新川 一円

諸事此分常あま市
 備乃云々一大隊。
 第七佐渡も城後より西
 ありて一島より内山岳
 ありて上杉と二瀬川。

日本地理

卷之十

117

○土産
金^{キン}
銀^{ギン}

銅	タネ
鉛	ナリ
礫砂	ミカキ
塩	エシ

硝 シヤウ
綃 キヌ
八講布 ハツカウヌ

鯽フナ
九ク万マン疋ヒキ

○越後
七郡

頸城 クビキ
古志 コシ
三島 ミシマ

魚沼 イナノ
蒲原 カムハラ
沼垂 ヌタリ

石船 イハフネ
新羽 カリハ

人口真六千四百八十八

廳
新
淳
一
月

檀特之罕八漱東

順徳天皇の御ありて

五ん不く
ふん
かひ
せん
ふき

五ん不く
ふん
かひ
せん
ふき

廣一其お川筋はあり。

山陰山陽二道并北東西

大寶二年三月越中

國シ四グ郡ヲをレ令テ當ト國ク

子侯

○土產
金^{キン}
銀^{ギン}

銅タネ
鉛ネ
漆ナリ
蠟ウシ

白布又ノ
縮布千ミ
石灰セキ

臭水油 セキタブラ
白鬼 シウキ
白 シ

芥子 ガラシ
黃連 ワウレン
當飯 トウキ

硫黄 イワウ
糸魚 イトウ

○佐渡
三郡

1
 於くありき土地南北海
 とろ。らんがくうえ

其中を縦に割裂する

三。信濃勢、八ヶ國

先づ佐の明次を。

第一を丹波とす。山玉やまぎ

羽茂 雜太 賀茂
人十方。三。九。八

廳 相川 一円

上古ハ佐渡嶋と云

天平十五年越後國

小供を天平勝宝四

年十一月あつひ佐

渡國をあら

○土産 金 銀

細辛 黄連 砂金

さて西北と東見星を天代

嶺高山多く玉内へ會は

水も大川となりて丹波小

流へる方流氷り混合

山城大堰の川源をま

弦藥 小鰯 石炭

山陰道ハケ國ハ

崇神天皇 概十年丹

波道主の命を命

丹波道ふき一伐

む十一年討平け歸

陣のりより四道將

軍是なり

○丹波 六郡

桑田 船井 多紀

第一を丹波國と云ふ

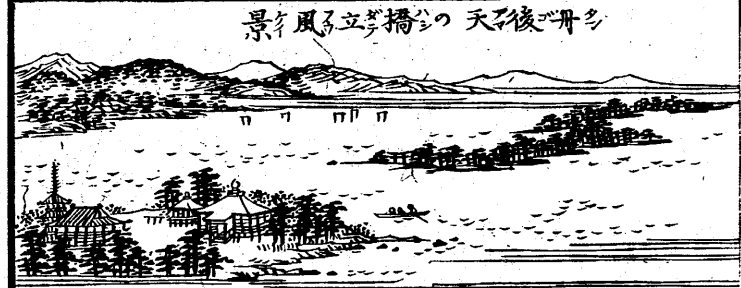
名をうもて大江山丹波大

川南より海より海へ入

て西海灣に示ある中央

南を穿ちて甲斐天の橋立

景を風立多揚の天の後丹多



一、それなむ市郡三景の
 二、等しうそふ稱ふれ
 第三、但馬川多き湾浦
 長大、法法ふふ末山海派
 是れ、たふ身生所、龍山あり。

氷上 天田 何鹿

合共万幸言荒人

古ハ丹迎波又且波

但波とも書け

○土産 茶 蠟

秋丸太 煙草 蘭

延 太布 辛灰

杓灰 栗 藥種類

銅

○丹後 五郡

一、河島城、最も
 名譽、此涌泉、最も
 外、全、丹波
 二、それなむ市郡三景の
 第三、但馬川多き湾浦
 長大、法法ふふ末山海派
 是れ、たふ身生所、龍山あり。

加佐 與謝 丹波
竹野 熊野

人口六万九千八百八

和銅六年四月丹波

國の五郡を割く當

國を置

○土産 蠶糸 縮
緬 紬 海魚 鰯

鰯 海松 葛菴

胡 蒲黃 海

一面分派して終る一は乃

廣大なる加留河に成る

あれてまゝ海に入る其取

物あり因幡伯耆と隠岐

國之をわけて管轄と

老 海蔵 海月

○但馬 八郡

朝来 養父 出石

氣多 城崎 美含

二方 七美

人口万七千八百六十八

廳 豊岡 但馬 丹波 丹后 丹

往古ハ但馬馬ヤ

多近馬とも云

日本地理

第五伯耆とまゝ方山を

坂戸て心を海と手の岬ハ

おや伯耆に保つ関を對

いへる最なる大なる名

和乃る程也丹山後院

○土産 銀 鑛
 砥石 真綿 小糸
 苧 苧藥 黄連
 白木 半夏 温
 石 鷹 特牛 柳
 行李 監艸 蕨
 麦 細ユ多
 ○因幡 八郡
 法美 八上 智頭
 邑美 高草 氣多

酢帝は乃在ふ西之根川
 東に橘津川ありて其末
 ふ少海へなれ出づ。
 第六出雲はまたや出
 雲楯建秋より島根

出雲大系社の山



乃四郡ふ半國都
 大岬長舌海を告ぐたを
 橘築此大社を初と
 日比星のまゝ佐田の浦に
 おや此大社を建く古記

八東 岩井

人足万五千五百人

廳鳥取 伯耆 因幡 隱岐 二府

古ハ稻葉まゝ稻羽

とも書レ

○土産 銅 木綿

海魚 帆立貝

貝柱 生糸 川魚

海素麵 木蠟

松平島根の松をそ乃

國を皆一處を管轄す

第七石見をす此備後

流江の川を玉内つぬ

其末を北乃海へ流出

萩原紙 引田糸

○伯耆 六郡

河村 久米 八橋

汗入 會見 日野

人口九萬五千五百人

昔ハ伯岐まゝ伯伎

とも書レ

○土産 鐵 鋼

熊膽 草 鮑 貝

斗 木綿

みま川を流合を高角河の

大河を流合を流合と流

流演田を流合を流合と流

そ乃一玉を管轄す

第八隱岐を雲北に流合

○出雲 十郡

意宇 能義 島根

秋鹿 楯縫 出雲

神門 飯石 仁多

大原

人口 廿万。四二八

縣 島根 一四

夫當國ハ神代の昔

須佐の乎命御み

から不服人ともを

セる一國を。三と小はく一と

大中の島を。ほる相市。

巡撫ある。所を。西の路。

は後醍醐帝。北。是。未。北。

所。所。の。江。岬。湾。多。く。廣。

征代。あ。ま。ひ。一。よ

ア以来大己貴神迄

此國を所領し。あ。ひ

其年歴いと長く黄

泉。所。く。通。ひ。る。ひ。け

其道。あ。ま。と。り。ひ

傳。し。伊。賦。夜。坂。乃。古。

跡。あ。ま。

土産 銅 鋳

蠟燭 土島苔 人

太。く。別。島。連。の。數。多。く。

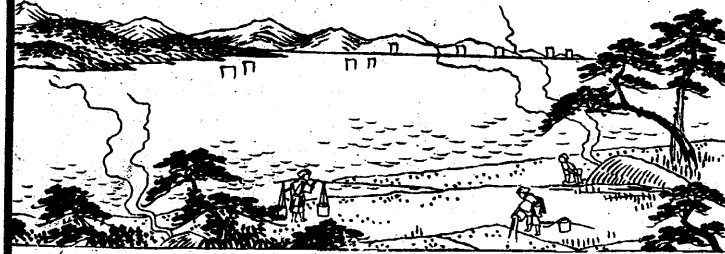
山。内。を。乃。ハ。ケ。國。

第一播磨を。東。の。方。加。古。川。

西。を。乃。根。河。を。中。を。市。

川。小。を。乃。南。乃。海。岸。明。

播磨名所鹽濱



石浦の濱より砂
 如神はくろき根乃根
 卯多様お多し。山に草
 に重倉や雪音船坂白
 旗山飾磨の糸を其ま

参 和 木
 鉄 紺 綿
 灰 鱧 石

○石見 六郡
 安濃 通摩 那賀
 邑知 鹿足 美濃

人口五万五千六百八
 廳濱田 一円

○土産 銀 錫
 鉉 蜂蜜 防風

みふ一園ふき
 第二美作山より東へ出る
 在の中流るは山川西の
 方へ勝山へ流る一川
 ちも昔も備前を流る小川

碁石コイシ 棒クヤキ 石炭セキタン

○隱岐カサ 四郡シクン

知夫チブ 海部アマ 周吉スギ

隱地カチ

人口コウコ 五十五人

○土產キリキ 桐材キリキ 桑ク

材キ 和布ワカン 鮑アヒ 煮スル

海鹿カシカ

上古オカシ 八隱岐島オキシマ とつ

又意岐マクオキ とも書シヨ け

其國そのくに 都みやこ なる宮みや 有あ たり。

第一び 倭やまと 都みやこ なる宮みや 有あ たり。

熊くま 山やま あり。熊くま 山やま なる宮みや 有あ たり。

二ふた の川がは をこ 玉たま 内うち をめぐ りてみ 見み たり。

海うみ へいづ 南みなみ へいづ 離はな せて 奥おく 島しま 有あ たり。

其その 道みち 沿したが へて 行い くとは 是こゝ なる宮みや 有あ たり。

乃すなは 渡わた 口ぐち あり。岡おか 山やま なる宮みや 有あ たり。

一ひと 乃すなは 玉たま 内うち なる宮みや 有あ たり。

第四よ 備ひ 中なかつ なる宮みや 有あ たり。南みなみ へ

流なが る河がは 新あらた 川がは 東あづま なる宮みや 有あ たり。

○山陽道セヨウダウ ハそのむろ

し 崇神天皇十年

吉備津彦キヒツヒコ の命ミコト を西

の道みち へ遺つた され荒振

神かみ を征せい せしむ翌年

ふ悉ことごと く討う 平たい らげ

帰陣キジン する四道將軍

ことありあり

○播磨ハヤシ 十六郡

明右アカシ 美囊ミナキ 加古カコ

大己貴命オホニギハヤヒノミコト

印南 鋤東 鋤西
 揖東 揖西 赤穂
 佐用 安栗 神東
 神西 多可 賀東
 賀西
 人口空方季七見大
 廳飾磨 元 縣路
 昔ハ針間と書ハ
 ○土産 銀 銅
 鉄 鋼 鋳 鉚

八幡宮。初山花見山。海
 一不き。う。つ。
 塩城。お。續。も。そ。う。内。よ
 吉。留。津。彦。之。備。を。中。瀬
 乃。官。居。り。山。田。新。津。乃
 廳。ち。ま。備。中。系。備。後。も。

鍋 鏡 鞍 韃 韃 韃
 糯 搗 海 魚
 塩 石灰
 ○美作 十郡
 英多 勝南 勝北
 吉田 吉田 冬采
 冬采 大庭 真島
 吉野
 人口空方季七見大
 廳 北条 一円

六。初。と。ま。成。官。轄。と。
 第五の備後と西江の川
 乃。石。入。る。左。南。と。第。田。川
 南。岬。新。津。乃。津。乃。中
 玉。の。貯。溜。を。其。福。福。も

ヤー。えき。まう。うへ。
 屋河と海入る大島小
 ちり。もんとう。
 と多し。音門乃路ふそ乃
 ゆきく。たより。
 のは来れ便ととは是残音
 セ。ひろーまを。
 る所乃上廣島縣の安

○土産 木綿 素
綿 陶器 糸
海魚類

○備中 十二郡
都亭 窪屋 賀夜
下道 浅口 小田
後月 哲多 英賀
上房 川上

人五万六千八百人
廳小田 備中一円
古ハ吉備中縣又吉
備中國とも云

○土産 銀 銅
鉛 冑 紫根 木
綿 烟草 斧柄
疊表 鐵 萩原紙
小菊 漆 大高
檀紙 藤行李 柳

筑一園備後で八郡を管

是に所を筑後守を管する

乃備の兵と一大隊

第七ふたを周防と南乃

海を国防洋を此方に岩

川錦帯橋と名を高一東

南の海中に諸島と大

郡なる北よりて三神山

水は此より山を流し防

長の二國を控えて各

行李

○備後 十四郡

安那 深津 神石

奴可 沼隈 品治

革由 甲奴 三上

惠蘇 御調 世羅

三給 三次

人量方卒習畢人

○土産 疊表 銘

酒 花蘆 烟草

第ハなも長門も南西北

三方も海岸ありて高山も多

く西より東に至る西も

九州の地豆前よりふも

志間実も北海も玄海も

乃船路も関のあり浮

標ニテ聖連島も燃香

あり礁の標も産物沖荒

鳴瀬乃礁や名石板礁

宿も要地の海門なる

銅 石炭 木綿

編笠 綿

○安藝 八郡

賀茂 安北 安南

佐伯 佐西 山縣

高田 豊田

人口五万七千七百人

廳 廣嶋 安藝二門

古ハ安岐又ハ安本

とも書れ

○土産 半紙 糸

子 水晶 葛籠

塩硝 釣柳 山葵

葉藍 今 海魚

類

○周防 六郡

大島 玖珂 熊毛

都濃 佐波 吉敷

人口九万七千四百人

廳山口 周防一円

往古ハ周芳ト書レ

○土産 半紙 糸

折 書板紙 紫漆

帯布 縮布 結

鹿子 三月草

○長門 八郡

厚東 厚西 美禰

豊東 豊西 大津

阿武 豊田

人口三万。吾。六人

南海道

南海道といふ國に伊ハ

山方山續き溪路と四まを

海を以て一道とす。

第一紀伊を畿内とす。南

あたる國にて是も此方

と活洲なる大海あり大

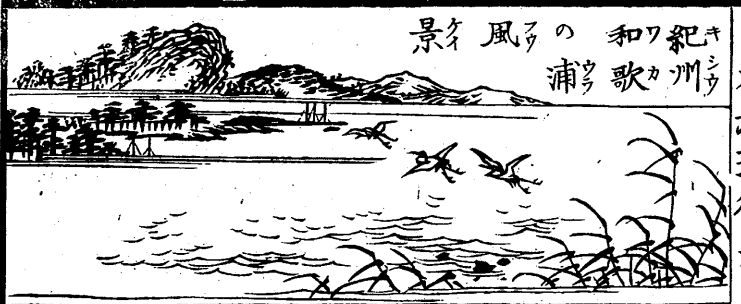
和接ある北の方山嶽多

ふ山に伊川芳野の下

流なり。南を智山とす。山

流なり。南を智山とす。山

流なり。南を智山とす。山



南の岬も名も寄松林又
 昔の岬乃岬の三に火
 考ありて白先を世里内外
 照る光を西にひて飛地を
 海部郡と名付るを栗嶋

昔ハ穴門國すこ穴
 戸とも書を
 ○土産 米 硯
 烟草 石炭 磁器
 素麺 碁石 薬
 海魚 印籠
 南海道ハ六ヶ國
 ○紀伊 七郡
 伊都 那賀 名草
 海部 在田 日高

社名あり和歌山縣内國
 内で七郡管轄を有す
 第二法路を記すの西北
 なる大島を傷ある小
 島と名付るを伝

牟婁

人口五万九千五百人

廳和歌山 紀一円

古ハ木國又紀國共

書以今紀伊國と書

了此の国攝津國と

書くは乃国と云ふ

同

○土産 蜜柑 良

材 蜂密 推茸

漆器 岩茸 松煙

網 鯨 海魚

海草 菜艸 奇石

傘紙

○淡路 二郡

三原 津名

人口十六万四千五百九人

古ハ淡道嶋と云ふ

道とも書け

○土産 陶器 木

日本第一初生國何れは

皆海濱に先山あり

西流く二原川海に流

所流く二原川海に流

里の地流く二原川海に流

乃神一燈者あり

第之阿波を西に土佐

諸波ふ界せり夏嶺より海

岩と云ふは海濱に先山あり

鮮旦中央より土佐に流

綿銅 五色撒石

海魚類

○阿波 十二郡

板東 板西 阿波

名東 名西 美馬

三好 麻殖 勝浦

那賀 海部

合垂万卒中穴

廳名東 阿波 二円

古ハ粟とも書レ

とた。一。本。出。る。芳。如。川。

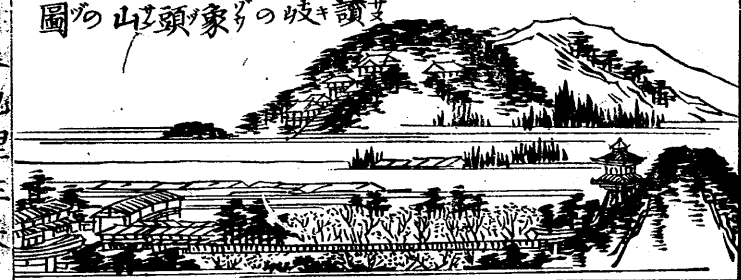
良。の。海。大。小。は。二。乃。門。

沼。多。と。名。東。船。を。阿。波。漢。

敗。藩。を。保。せ。る。藩。を。

第。四。と。則。藩。政。を。家。も。名。

讀。其。岐。の。象。頭。の。山。の。圖。



た。う。た。象。頭。山。飯。野。山。

後。船。五。箇。山。より。八。栗。山。

乳。の。海。廣。崇。徳。帝。後。

と。人。を。像。形。と。良。の。沖。に。立。

乃。堤。陸。七。島。福。多。の。山。乃。

○土産
藍玉アイタマ
水モ

綿ウニ
材木サイモク
素麵サウメン

蛤蜊 ハマクリ
燧石 ヒウチイシ
和布 ワカメ

鹿尾采 ヒシキ
塩 シヲ
海 ウミ

ウチルイ
アカネ
セキタン

魚類
銅
石炭

○讚岐
土郡

大内オフチ
寒川サムカハ
三木ミキ

山田 香川 阿野

鵜足ウタリ
那珂ナカ
多度タト

三野
刈田

人口垂五萬七千天

○土産
砂糖サトウ
索サウ

麵^{メン}
塩^{シヨ}
圓座^{エンザ}
海^{ウミ}

ウチルイ
魚類

セキタン
石炭

○伊豫
十三郡

ウマ
宇摩
ニヒキ
新居
スフ
周敷

桑村クハムラ 野間ノマ 風早カサハヤ

和氣 温泉 夕米

浮穴ウキアナ
伊豫イヨ
喜多キタ

宇和越智

乃 禱^{こころ} 煙^{えん} 者^{もの} あり 禱^{こころ} 臺^{たい} 分^{ぶん}

堂より松より偏の兵と一大隊

第五 いよの 伊豫 くみ 法 ほ 東 あ

空河名樵山南佐山中

央々 唐岩 岳々 蒼々 山東

南土佐と接し山嶽を

てきとう。西北方。海

岩を山湾の如く鑿せり

北海中と突出する富島の

取と得と憐れん是これを心こころ伊い

人呈方幸九皇吏

廳愛媛イヨ一円

○土産 銅 紙

奉書 松原 帯布

簾 木綿 炭

薪 木綿 半麦

紫艸 素麵 五

穀 海魚類

昔ハ伊余又伊与と

も書きしとあり

○土佐 七郡

安藝 香美 長岡

土佐 吾川 高岡

幡多

人口五万半書入

廳 高知 一円

往古ハ土左又都佐

とも書之白鳳十三

年諸國大地震の時

當國の田地五十余

日本地理備考

豫北山富なれまふに鶴

の乾多。山の鶴は鶴をわり。

書媛お金と一箇管

強つたもれまふ。

第六なる土佐は西伊

豫北山富なれまふに鶴

の乾多。山の鶴は鶴をわり。

書媛お金と一箇管

強つたもれまふ。

第六なる土佐は西伊

日本地理備考

万頃波し海とふ
此時伊豆國ふ一
ツれ鳴出来きと

○土産 紙類 靑

紙 茶袋紙 清長

仙花紙 砂糖

推茸 樟腦 石炭

銅 炭 薪 鯉

脯 駒 良材 太

布 海州 羊種
蜂蜜 野根板 絹

西海道十一个國

○筑前 十五郡
怡土 志摩 早良
那珂 席田 糟屋
宗像 遠賀 鞍手
嘉麻 穂波 夜須
上座 下座 御笠

渡山傍を流る河川東南

を碑し中を流る河川

廣大なる河川

高なる縣治建おれ其

一玉の河川

西海道十一个國

其第一と筑前と南筑

後紀を抄山續くそ乃

中^{ちゅう}最^{さい}北^{ほく}高^{こう}あまの山^{さん}
 ひきふくよけてんいざん。こめ
 ま水^{みづ}吟^{ぎん}天^{てん}折^{せつ}山^{さん}米^{まい}北^{ほく}宗^{そう}
 りくやま。そのりく
 像^{ぞう}山^{さん}西^{せい}方^{ほう}あま雷^{らい}山^{さん}小^{しょう}海^{かい}湾^{わん}
 のぞくみ
 よる望^{ぼう}見^{けん}る像^{ぞう}多^たたそろ
 ろう。^{はこぶ}ひろ
 中^{ちゅう}嶺^{りょう}廣^{くわう}まゝ玄^{げん}海^{かい}島^{とう}
 だんういどま。

廳福
一円

往古ハ筑紫ト云又
望志トモ書ク後リ

チクセンチクゴリヤウシク
筑前筑後の兩國を分
サウシサイカイトウ
は惣く西海道を筑

シ
紫とソ其國數々也
ソクカス

ク
ユ
ミ
シ
マ
ラ
シ
九國三島を天

長元年九月多櫛嶋
を停く大隅に入る以

卷之五

洋うみもをふら玄海くわんかい灘北なんきた
 まつぐ。ふくそうん
 子こて松浦清福しょうふく出然しゅぜんのそ
 ふ
 玉たま即系一急いつきゅうふ客きやく糧りやうはて。
 くさん
 第二だいに五ごハ筑後ちくごまで久保山くぼさん
 くま
 能よ山さん守母岳もりおつたけ高たかる山さんこそ玉たま

后九国二島と称せ

大宰府

御笠郡ふらと則国

府あり當府ハ都て

九國二嶋を掌り且

諸蕃の来聘あり

非常とまり

諸蕃とハてて外国

をり唐士三韓をさ

に唐士ハ今の支那

垂宮北に繞るる筑後川

中央流るる矢部河あり三

諸國の都府あり

第一壘前ハ海岬の端

を門司と云沖より次々

難ありて標々赤色なる

形ハるる方山とて西

邊に我々と云中なる

彦山あり小倉北原と云

を云一國管轄する

ふを三韓ハ今乃朝

鮮より古ハ馬韓辰

韓并韓の三韓を云

後ハ新羅百済高麗

と改む皇国ハ始て

貢献するハ任那国

て百済の東南の国

ありしが推古天皇の

御代ハ滅亡せ

探題職

武家より此職を置
伏見天皇御宇永
仁元年鎌倉の執権
北条貞時それ一族
兼時を始々鎮西の
探題と為して西國
を監督せしむ同時
小長門も探題を
置いて中国を掌り
む文永十年十月十五

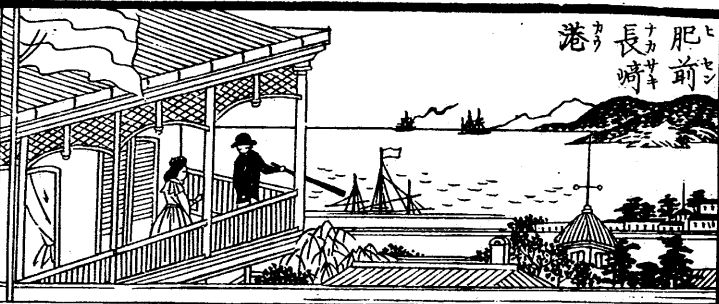
此所鎮西諸者あり
常備の兵と二大隊ある
船及ぶありあり
第四軍は東北海西
湾にありあり

日元兵對馬に入寇
を十四日吉岐を攻
め賊二島を破る
十九日二十日博多を攻
戦官軍多々賊を
撃つ此夜大風雨
賊船多々破れ賊兵
遁走る賊軍不還者
一万三千五百余人賊
軍初め二万五千高麗

藍の所より所焼老築造
と西南に阻む高崎山
石山酒市布山新嶽
垣嶽あり其甲より新
見嶽より噴火あり東南

日本地理備考
 軍八千合て二万三千
 人其殺さるる過半は
 夫我兵の勇闘推
 て知る一建治四年
 六月五日又賊と志賀
 嶋小戦ふ是を敗る
 五日より十二日至九日
 の戦争一度も勝を
 えるをいふに肥前
 の鷹嶋退く閑七

沙の舟は川大を流るを
 水は流るを管轄と
 第五肥前を筑前を筑後
 二國の南より甲斐興
 自と一はもとを



肥前
 長崎
 港
 漁師の富院甚びる中
 長崎の如きは交易
 最にお大港を管轄
 孫山もはるまで温泉
 秋何と云ふもはるまで

月朔日 颶風大作 作
 賊船皆破船沈没
 一賊歸國せしむ
 十万人高麗賊七千
 余人
 ○土産 米 五穀
 唐織 帶地 練
 酒 石炭 海魚
 ○筑後 十郡
 御原 生葉 竹野

西より平戸島あり。伊王
 島より船通るに佐賀の
 船はこれより九郡管
 轄なるなり。長崎縣を
 経るに板橋より對馬の

山口 御井 三瀬
 上妻 下妻 山門
 三毛
 人口五万五千五百人
 廳三瀬 一円
 ○土産 五穀 石
 炭 紅花 木綿
 紺糸
 ○豊前 八郡
 田河 企救 京都

第六肥後より阿蘇山なる
 煙を絶えず白山種山五
 家の莊より歸る市山河
 川尻より代川あり海に

仲津 築城・上毛

下毛 宇佐

人口 四万五千四百人

廳 小倉 一円

往古ハ豊國といふ

お前後の兩國分つ

○土産 小倉嶋

硫黄 水晶 山艸

石炭 海魚類

○豊後 八郡

大島と云つて是れ今も

と云ふ天草郡に連なる

其内海に火津里人

を云ふと云ふ白川

を云ふと云ふ一帯

日高 球珠 直入

大野 海部 大分

速見 國崎

人口 五万三千八百人

廳 大分 一円

○土産 錫 鉛

碁石 塩硝 水晶

藺疊表 黒緋布

絞木綿 燧 筆

官 大竹 虎彪

可ふふふふふふふ

兵をわきまを

第七日向を北の方矢嶽

乃隼臺尾山

種名をたうく西子

切炭 錫海
 臭梅 炭材木
 藥艸 煙草 硫
 黄 明礬

○肥前 土郡
 基肄 養父 三根
 神埼 佐嘉 小城
 松浦 杵島 藤津
 彼杵 高梁
 人草 方里 買人

主なる山は噴火
 なるは最嶽を猪鼻嶺と
 吉山、牛嶺、新川、
 流るる海へ流れて大
 淀川、大河なり。宜崎、
 宜崎、



其國一帯は大河で
 流るる海へ流れて大
 第一大隅、山、
 海へ出づ。大隅、
 東南、大隅、

肥前

長崎 肥前 三郡
佐賀 肥前 九郡

佐賀

往古ハ火の國といふ
後肥后肥前分つ

○土産

米 石炭
磁器 煙草 畳

表

畔織 木綿

画延

馬簾 海魚

西瓜

鯨 鯨 鯨

鯨

海

鯨

鯨

○肥後

十六郡

玉名

山鹿 菊池

阿蘇

合志 山本

飽田

託麻 益城

宇土

八代 天草

葦北

球麻 米良

五家

合五五五五五

廳

白川 一円

○土産

米 蜜柑

郡を種子島に取換むる屋

久島を其より海對生

乃海とあるを千里なり

是を併せて玉を佐多

北押は燈臺あり白光二十

一里なり

第九薩摩を東南西三

方海より東北の間を日隅

肥後接を山濱洲無相多

一。南ふたを海心嶺薩

陶器 トウキ シボリモナン 絞木綿 キセル トイシ カハガシ

煙管 ヒウチイシ 砥石 ゴイシ 皮篋 カハガシ

燧石 ヒウチイシ 基石 ゴイシ 海

魚 イサ 海艸 カイサウ 藥艸 ヤクサウ

石炭 セキタン

日向 ウスキ 五郡 コユ ナカ

臼杵 コユ 兒湯 ナカ 那珂

宮崎 ミヤザキ 諸縣 モロカタ

合聖方李重直人

廳宮寄 日向一円 大隅六郡

府 マフ 富 フ 山 サン 中 チュウ 央 オウ 山 サン 麓 ロク 摩 マ 山 サン

山 サン 西 セイ 北 ホク 山 サン 間 カン 岳 ダケ 岳 ダケ

山 サン 西 セイ 北 ホク 山 サン 間 カン 岳 ダケ 岳 ダケ

山 サン 西 セイ 北 ホク 山 サン 間 カン 岳 ダケ 岳 ダケ

山 サン 西 セイ 北 ホク 山 サン 間 カン 岳 ダケ 岳 ダケ

景行天皇 キョウコウテンノウ 代 タテ 始 ハジメ 日 ニチ

向國 キョウコク と 名 ナ 所 ショ 始 ハジメ 日 ニチ

土産 ドサン 銅 ドウ 鋁 リウ

松材 マツザイ 炭 スミ 苦竹 クナク

漆 ウルシ 藤行李 フシガタリ 黄檗 キワダ

茶 チャ 五倍子 ゴバシ

大隅 オホスミ 八郡 ハククン

菱刈 ヒシカリ 桑原 クハバラ 贈映 ソウエイ

大隅 オホスミ 始羅 アヒラ 肝屬 キモツキ

馭謨 ゴモ 熊毛 クマゲ

之 コノ 所 トコロ 倭 ヤマト 一 ヒト 郡 クン 唐 タウ 見 ミ

島 シマ 餘 ヨリ 其 ソノ 國 クニ を ヲ 一 ヒト 郡 クン 唐 タウ 見 ミ

大隅 オホスミ 二 ニ 郡 クン 管 カン 理 リ 取 トル 也 ヤ 此 ココ

大隅 オホスミ 二 ニ 郡 クン 管 カン 理 リ 取 トル 也 ヤ 此 ココ

備 ビ 乃 ノ 兵 ヘイ 四 シ 小 コ 隊 タイ

人甚方卒章六

和銅六年四月日向

國四郡を分て當國

を置く天長元年九

月多櫛島を停る當

國小属を

○土産 金 銅

鉄炮 硫黄

○薩摩 十三郡

出水 高城 日置

第十臺政國を肥前の

北を一島を三方岬灣を

うへ。海面をく突出て

白泊山を名を島

第十一を對馬を名を島

乳を名を島を名を島

五千里程を南を名

の。車を二方を灣を名

市岳は著大早の矢を山

馬山を名を島を名

龍嶋 薩摩 伊作
阿多 河邊 類娃
揖宿 給黎 谿山
鷹嶋

人口五萬九千五百人

廳鹿兒嶋 薩摩一門
大隅二郡

古ハハ派間と書を

○土産 金 錫

黒砂糖 秋材 煙

紅花 紫根

日本地理

赤芋 アカイモ 硫黄 イワウ 樟腦 ショウノウ

大名筆 タイウチク 牧馬 マキウマ

生蠟 キロウ 木綿 モノン 紵 チヌ 紵 チヌ

聚入参 ヒケニシ 莪朮 カシユツ

海人草 カイニサ

○壹岐 イチキ 二郡

壹岐 イチキ 石田 イシタ

人口三万三千人

往古ハ伊吉嶋とも云

又伊岐とも書レ

山々淺茅浦ヨ海茅山音

都々名所なり

都九州の松名をば昔箱

都云味を日向と云

今ヨ日隅彦之地を本

○土産 綾布 アヤタテ 海 ウミ

栗 ニ 鯨 シシラ 鯨 フリ

○對馬 二郡

上縣 下縣

人口二万九千六百八十八

古ハ津島又集嶋と

も書を對馬とハ三韓

の馬韓則ち百濟國

對馬とも云起リ

名郡

都其府に基印地と云

早振都代のまじり都

いと都事なり

琉球王を九州に南沖と云

都國を沖繩と云地

琉球國の龍洞、松島、瀾の圖



親良坤長とて乳巽の幅
 寺尾三府とて中山と山
 南庄とて其海濱の
 西岸とて最大なる半島あり
 其港とて流中船とて又其

○土産 久参 青
 砥石 鋁 推茸
 鮑煖斗 海粟

○琉球國 十五島

沖繩嶋 計羅嶋 戸無
 嶋 久米嶋 粟嶋 伊惠
 嶋 伊足那嶋 惠平屋嶋
 鬼界嶋 大嶋 徳嶋
 永良部嶋 興論嶋 八
 重嶋 宮古嶋

小の瀾とて洋人已に羅瀾
 西南子とて那那港あり
 己の北端とて此處武吉
 北の岬とて戸崎ありハ
 此岬とて龜山とて海濱小浦

以上十五島

人口六万七千九人

主府ハ沖繩嶋那覇

港中山府あり

鹿兒嶋迄二百十里

肥前長崎迄三百里

朝鮮釜浦迄四百五里

タカサコ迄二百五里

○琉球國ハ其昔

源為朝此地より渡リ

流山に納藏や佳林之藏富
花川をふくむ都て屠焉
辛路と海と千五里と
夫我朝の地規るや良坤
伸びるる海志首四北乃

大里按司の妹を娶

り尊敷を生む是を

舜天王と云ふ其後

國王姓を代ゆると

雖とも子今為朝の

宿國王也徳川氏

小至リ嶋津家小隸

を明治五年

朝廷郎を賜ひ藩主

小冊封を

中常そ寒暖ふくま候
和立穀財産富饒を不
毛沙漠のふくむ西敵妻
忠臣を給ふ人忠臣道
成樂く 皇化を慕ふ計

○土産 朱^{シユ} 琉球^{リウキウ}
 表^{オモテ} 朱漆器^{シユウシキ} 駿馬^{シユンバ}
 大平布^{タイヘイヌ} 櫛^{クシ} 芭^バ
 蕉布^{セウフ} 棕櫚皮^{シュロカバ} 肉^{ニク}
 桂^{クイ} 泡盛酒^{アバモリシユ}

本朝國郡名 終

るり。素より此書は素家の
 視通^{シツトウ}を充るるをれと。そ乃
 棟梁^{ドウリヤウ}と譽るは美矣。

是書恒は素家

明治五年申年十二月開板

同 七甲戌年十二月再版

官許

同 八乙亥年三月發行

纂輯

大阪府下

榎木正太郎

校正

同平野郷

小川伊典

開板人

大坂心齋橋筋本町

梶田喜藏

弘通所

同 南堂寺目 松村九兵衛
 同 南本町 村上真助